



分野別フェスティバルは県内全39市町村で開催(写真は「曾爾の獅子舞」)

日本文化はじまりの地で

「奈良は日本文化はじまりの地。海外からの渡来文化と日本古来の文化が融合し、新しい文化を生み出した場所でもあると自負しています。そのような歴史のある奈良で文化芸術の祭典を行うことで、また新しいものを生み出すことができれば」

「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」(以下「国文祭・障文祭なら2017」)の開幕まで100日余りとなった春の一日。奈良県庁を訪ねると、平田さんは

にこやかにそう切り出した。「国民文化祭」とは、文芸、音楽、美術、演劇など各種の文化活動を通じて、全国規模で発表・公演する文化の祭典。国民の文化活動への参加機運を高め、新しい芸術文化の創造を促そうと、1986年から毎年、各都道府県持ち回りで開催されている。

一方の「全国障害者芸術・文化祭」は、芸術文化活動への参加を促すとともに、障害に対する国民の理解と認識を深めることを目的に2001年スタート。こちらも各都道府県持ち回りで、例年12月

東大寺大仏殿前で開催するオープニング「開会式」



やまとし うるはし、おもしろし

——「第32回国民文化祭・なら2017」「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」

体感する奈良! “心” 感覚展(写真は昨年度の様子)



全国初の一体開催

この二つのイベント、国民文化祭は文化庁、全国障害者芸術・文化祭は厚生労働省と担当省庁が異なることもあり、かつては開催地も別々に決められていた。2015年の鹿児島大会から同一県開催となったが、国民文化祭終了後に全国障害者芸術・文化祭が行われるなど、開催期間は異なっていた。「奈良県ではこの二つの祭典を一緒にやろうと。障害のある人もない人も同じ場に集うことで、新たなつながりが生まれ、創造の幅も広がるのではないかと考えています」

3日～9日の障害者週間に合わせて開催されることが多い。



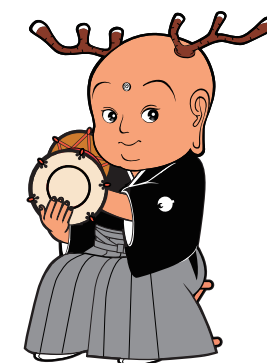
今年の奈良は、ひとときわおもしろい——

2017年9月～11月、「第32回国民文化祭・なら2017」

「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」が

全国で初めて一体開催される。県内39市町村を舞台に、障害のある人もない人も共に楽しむ文化芸術の祭典だ。

その意義や見どころを奈良県地域振興部 国民文化祭・障害者芸術文化祭課課長の平田千江子さんに聞いた。



文化芸術を堪能する3カ月

「国文祭・障文祭なら2017」の基本理念は、①日本文化の源流を探究し日本文化の源流を国際的つながりも視野に掘り起こす ②文化の今を楽しむ積み重なった今ある日本文化の厚み、深みを堪能する ③文化芸術立国の礎を築く文化の交流で地域に元気をつくる ④障害のある人となない人の絆を強く文化の力で新たな関係をつくる——の4点。

期間は9月1日～11月30日の3



上／NARA・国際交流フェスティバルの舞台となる天理駅前広場「コフン」
下／シンポジウム「フォーラム・NARA」は春日大社などで開催(写真は昨年度の様子)

カ月間。オープニングとフィナーレを飾る「総合フェスティバル」、文化芸術について考える「シンポジウム事業」、世界の音楽やダンスを楽しむ「国際交流事業」、障害のある人となない人が共に参加する「障害者交流事業」、県内全39市町村が多彩な事業を開催する「分野別フェスティバル」等々、県内各地で催されるさまざまなイベント事業で構成される。また「文化の力で奈良を元気に！」をテーマに毎秋行われている「奈良県大芸術祭」も同時期に開催され、奈

良の秋をさらに盛り上げる。

世界遺産も舞台に

イベントの中には、奈良ならではのロケーションを生かしたものも多い。祭典の幕開けとなる「開会式」会場は世界遺産の東大寺大仏殿前、シンポジウム「フォーラム・NARA」は春日大社や大神

目白押しなのは「能楽発祥の地」といわれる奈良ならではの。聖徳太子、遣唐使、山の辺の道、吉野南朝、天誅組など、歴史の舞台や人にスポットを当てたイベントも多い。「各地域の皆さんが受け継いできた伝統芸能や歴史も、この祭典を機に、より多くの人に知っていただきたい。地域の活性化にもつながればと期待しています」

新しい文化の創造・融合

奈良県文化会館の1階では、マスコットキャラクターである袴姿のせんとくんをあしらったカウンタダウンボードが開幕までの日数を示している。今年1月からは国民文化祭の旗を全市町村でリレー掲示し、県内PRと県民の巻き込みを図る。開催200日前の2月には東京・渋谷で首都圏プロモーションを実施。王寺町在住の車いすの書家・高岡哲也さんと、奈良ゆかりの書家・紫舟さんが合作する書道パフォーマンスが話題になった。さらに4月下旬、イベントのPRや期間中の「おもてなし」に協力してもらう「応援サポーター」の募集もスタートした。「このイベントはきっかけ」だという平田さんは、1300年前



「能楽発祥の地」といわれる奈良ならではの能公演

神社で行われる。国際交流フェスティバルの舞台となる天理市でも、日本最古の神社の一つ、石上神宮でのコンサートが予定されている。一方、各市町村での「分野別フェスティバル」は、伝統芸能から現代音楽・アートまで多彩だが、やはり豊かな歴史文化を生かす内容が多い。なかでも能公演が

障害のある人となない人が共演する「車いすダンスパフォーマンス」



に国際交流・文化融合をなし得た奈良だからこそ、再び新しい文化芸術の創造・融合が行われ、将来へとつながることを願っている。そのためイベントには若者や次代層の巻き込みが不可欠だ。「できるだけ多くの人に参加していただき、みんなで盛り上げていきたい。そしてこの祭典をきっかけに、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、文化を奈良県振興の源となるブランド力として、日本に、世界に発信していきたい」。やまとしゅうるはし、おもしろし。幾重にも重なる山々に囲まれた、今なお美しい姿を残す古都奈良。ここ奈良から、幾重にも重なる文化を新たに発信し、その「おもしろさ」で世界の関心を集めるだろう。■

奈良県文化会館「国際ホール」でフィナーレを飾る

